

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第9号
平成25年(2013年)
4月1日 発行



大阪別院本堂狭間（二十四孝）

私たちが人生で求め続けるものは、自分自身への深い納得であり、うなづきにある。

平野 修

今年、五十歳になり恩師のこの言葉が身に響きます。

私は生きる上で、何を頼りとし、よりどころとしてきたのか。社会的地位や教養、あるいは財産なのか。

しかしそういうことは自分自身の生き方にこれでよかったのかと疑問を持ち、「生きる」ということに思い悩む時、いかに当てにならないかがわかりました。

まわりと見比べて時には優越感、時には劣等感を感じ浮き沈みをしますが、現在只今を生きる私のいのち、それは誰とも比べてみようもないかけがえのないものです。

自分に与えられた一切の場が私の生きる道と引き受けて往くこと。

念仏が開いてくださる仏道を、そのように聴かせていただいています。

（葦名 彰）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

なかい けんりゅう
輪番 中井賢隆

実は、亡き人が成仏しているかどうかは向こうの問題ではなく、こちらの問題、私の問題なんですね。

親鸞聖人は、亡き人を「先祖」ではなく「諸仏」とおっしゃいました。

よく刑事ドラマなどで、亡くなった人を「仏さん」という言い方をします。

あながち間違いではないのですが、私は少し合点がいかないのです。

それは、亡き人が私にとって「仏」といえるのかという一点に尽きます。

では、どこで亡き人を仏さまといえるのでしょうか。

お寺に参る

「ご院さん、うちの主人、成仏してま
すんやらか?」。知り合いのAさんが、
神妙な面持ちでお寺に訪ねてきました。
「何かあったの?」と話を聞いてみる
と、一年前に亡くなったご主人がよく
夢に出てくるとのこと。
夢にまで出てきてくれるとは有難い
ことだと言うと、迷っているのではな
いかと気味が悪いという始末。

「成仏」とは、文字どおり仏に成ること。

では絶対に来れない場所です。

亡き人を縁として、後押しされて身
を運び、ようやくにしてお念仏の教え
に遇わせていただく身となるのです。

ですから「お寺に行く」のではなく、
「お寺に参る」。

「参る」といのは、単に「行く」とい
うことだけでなく、参りました、つま
り降参しましたという意味があります。

お念仏の教えに照らされたら、迷っ
ているのは亡き人ではなく、この私で
あったと知らされます。

私たちはその身の事実に降参するし
かありません。

そこに、亡き人を仏と拝み、南無阿
弥陀仏と念仏申す生活が始まるのです。

(平成24年3月23日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

『大経』偈文^{げもん}に聞くゝ三誓偈^{さんせいげ}ゝ

大阪教区・浄方寺 門川崇志師^{かどかわ たかし}



が請わなくても阿弥陀さまはこの私の苦悩を我が苦悩として受け止め、ご自身の安らぎとしてこの私に安らぎを与えようと寄り添ってくださっているのです。

お話を聞いて

平成24年12月4日開催のさつき会研修会で門川崇志師から「三誓偈」についてご講義をいただきました。

※ ※ ※

「三誓偈」は、その名の通り阿弥陀さまが願われた三つの誓いをうたった偈文です。

一つにはこの上ないさとるを指すという誓い、二つには苦悩する全てのいのちを救いたいという誓い、そして三つにはその救いをお念仏を届けることで実現しようという

誓いです。阿弥陀さまの願いは広く言えば四十八あります。が、端的にはこれらの三つの誓いにおさまります。

そしてさらにこの阿弥陀さまの誓いは第十八願の一つにおさまります。ですから第十八願をご本願ともいいます。

そのご本願から阿弥陀さまが全てのいのちを救いたいという願いをもたれた理由を味わわせていただきます。

それは「若^{にやく}不生^{ふしょう}者^{じゃ}、不取^{ふしゅ}正^{しょう}覺^{がく}」というお言葉です。これは「あなた（この私）が往生

できないならば、私（阿弥陀さま）は仏とはならない」という意味です。苦悩するこの私に安らぎがおとずれない限り、阿弥陀さまにも本当の意味での安らぎはないということと味わわせていただきます。

『大経』には、「もろもろの庶類^{しよるい}のために不請^{ふしょう}の友となり、（中略）もろもろの衆生において、視ること自己のごとし」と阿弥陀さまのいのちの見方が説かれています。

あらゆるいのちを我がいのちとして見つめられ、こちら

昨今、いじめや体罰、そして自死の問題がニュースに取り上げられています。そんな時であるからこそ、今一度この阿弥陀さまのいのちの見方、いのちのつながりの世界を聞かせていただくことが大切であると教えていただきました。

普段よくお勤めさせていただく「三誓偈」を通して、阿弥陀さまの誓い、そして私たちに對する思いの深さをあらためて感じたことでした。

（さつき会会長・

隅谷朋子 記）

大阪探検

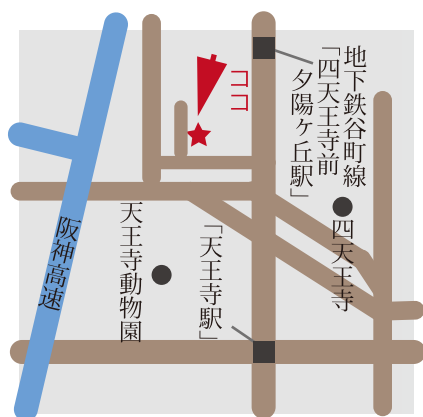
きよみずでら 清水寺



玉出の滝



舞台からの眺望（通天閣も見えます）



大阪市天王寺区伶人町 5-8

電話 06-6779-9559

地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」5番出口から徒歩5分

大阪市天王寺区伶人町にある有栖山清光院清水寺は、総本山四天王寺の支院である和宗寺院です。

かつては有栖寺と呼ばれていましたが、寛永十七（一六四〇）年、境内西側に「清水の舞台」を模した舞台造の本堂を建立し、京都・清水寺から聖徳太子作と伝わる十一面千手観世音菩薩をご本尊として安置したことから、清水寺となり古くは新清水寺とも呼ばれていました。

玉出の滝

実はこの清水寺は大阪市内唯一の天然の滝「玉出の滝」がある寺院なのです。「玉出の滝」

は境内南側にあります。写真をご覧ください

くとお分かりになるとと思いますが、三筋の水が流れています。京都・清水寺の「音羽の滝」にそっくりです。

この滝の源は四天王寺金堂ご本尊下にある青龍池から湧く白玉石出の水だと伝えられています。

白き石の間より玉のごとく清泉涌出する（白玉石出）といういわれから「玉出の滝」と呼ばれるようになったそうです。

ちなみに私の玉出姓の由来については戦時中に資料が消失したため、はっきりとはわかりません。しかしながら大阪市内唯一の天然の滝が「玉出の滝」という名であることに縁を感じたことでした。

（玉出宗順）

全国の

ごえんさんを訪ねて

こうりんじ 光林寺（奈良） かわばた 川端 さとし 悟 住職



快慶作のご本尊

光林寺のご本尊は承久三（一二二二）年、快慶作の仏像で、国の重要文化財に指定されています。



快慶作のご本尊

また、光林寺は光明本尊も有し、その裏書きから、六百五十年以上前に北道場・南道場という下寺を持つ大坊であったことが知られます。

しかし、明治の頃には境内地が半分に縮小されるなどの幾多の法難に遭われました。荒廃した光林寺の復興のため、奈良・光専寺住職の弟の随龍師が入寺、二代目の龍範師と苦難に耐え法灯を継がれました。

三代目の光宣師は悲惨な戦争体験をいかし、保育園や母子寮といった社会福祉事業に尽力されました。

教区研修会

現住職である四代目の悟師は成和保育園園長であり、また長年奈良教区の教務所長をされています。ご自坊での間法会は先代住職の頃より四〇五十年毎月開催され、教化活動にあたられています。



教区研修会

教区の研修会も毎月光林寺を会場に四十年以上続けられています。最近では本山発行の『釈尊伝』の輪読をされています。

また、坊守様は奈良教区の坊守会会長で、全国坊守会連盟の理事も務められ、お寺も保育園も住職様・坊守様二人三脚での奮闘ぶりです。
（長田 譲）

■光林寺（こうりんじ）

〒636-0205

奈良県磯城郡川西町

保田43-1

電話 0745-43-1505

Fax 0745-43-2837

JR 大和路線「法隆寺駅」

より徒歩約 40 分

（約 3km）



坊守様の著作の保育実践録

一 絶望が原点

私は、昭和12（1937）年に神戸市で生まれ、小さい頃から体が弱く、小学生の体育の授業を半分は見学する程でありました。体力が弱いため、自分勝手にいつも誰か身近な人に頼るという人生を送

ってきたわけですが、そのうな中で、妻と出会い、彼女を頼りにサラリーマン生活を過ごしてきました。

いつも妻を心の頼りにしておりましたので、「定年後は妻を楽にしよう」と常々思っておりましたが、55歳の時に妻に先立たれ、この自分の

勝手な思い込みが完全に断たれてしまいました。この絶望こそが私がお念仏の教えに遇っていく原点となりました。

また、58歳の頃から手足の一部が利かなくなる奇病に罹りましたが、難病対策の食事療法と介護保険、周囲の人たちのお蔭で、こうやって暮ら

せていますし、自分自身のこととも思いどおりにならないことを身に沁みて思い知らされてもいます。

一 仏法を私に

伝えるもの

私にとっては、実際に生きられたお釈迦さまがお説きになられたということが、大変大きな意味を持ちました。仏法の始めが「生きたお釈迦さ

ま」だからこそ仏法を感じる事ができるのです。「生きた方」から「生きた方」に「生きた教え」として伝わったから仏法がいただけるのです。お釈迦さまから七高僧そして親鸞聖人と「生きた方」を頭に描けるから、私は仏法を感じられるのです。

仏法というものは、仏教以外の宗教でもそうであるように、「言葉以前の世界を言葉で表現すること」であります。

言い換えれば、仏法というのは、「言葉の世界ではなくて、まさに言葉の向こうにあるものだし、言葉の向こうにあるものとして伝わっていくもの」であり、そしてそれを何とか言葉で表現しようと、長い歴史の中での先師のご苦労があ





京都大学経済学部を卒業後、住友電工に入社。常光寺前住職・佐々木英彰師が上司であった2年間を含め、37年間の会社生活を送る。55歳のときに妻を亡くし、親鸞聖人の教えに帰依する。60歳で会社定年後は佐々木英彰師の勧めで佛光寺茶所布教の聴聞、および龍谷大学や大谷大学で聴講を重ね、現在にいたる。

ったのです。

理屈や言葉の世界ではなく、

言葉の向こうにあるからこそ、

「生きた方」から「生きた方」

に伝わるのではないでしょう

か。言葉以前の世界、言葉の

向こう側にある阿弥陀の世界、

念仏の世界を文字の力、言葉

の力に変えて伝えられたのが

親鸞聖人だと思います。

また、『教行信証』、ご和讃

のご真筆やご生前の肖像画な

どが現存しており、親鸞聖人

を身近に感じられることも、

仏法を私に伝えてくださるこ

ととして、非常に大きいと感

じております。

親鸞聖人のご真筆を通して、

親鸞聖人の何かしら息づかい
のようなものを感じることが
できることを大変有り難いこ
とと思っています。

一 どうにもならぬを 超える

私の今の姿は、先ほども申
しましたように、思いどおり
にならない、どうにもならな
い状態であります。しかし、
南無阿弥陀仏はどうにもなら
ない状況を超えさせてくれま
す。「南無阿弥陀仏」と称える
瞬間は、どうにもならない私
が安らかな気持ちになれます。
この一瞬の繰り返しでありま
す。親鸞聖人は、煩惱は無く
ならない、どうにもならぬ私
たちを超えさせてくれるのは、
「南無阿弥陀仏」しかないとお

教えくださいます。

「南無阿弥陀仏」という短い
言葉ひとつで、偉大な仏法が
伝わっていくことの素晴らし
さを噛みしめざるを得ないこ
とであります。

鈴木大拙師は、お念仏の行
を「LIVING」と英訳さ
れました。「LIVING」と
は「生きる」ということです。
煩惱をかかえた、どうにもな
らぬ私たちがお念仏を称える
瞬間は安らかになれる、まさ
に生きることの瞬間と捉えて
いることが真宗であり、それ
が真宗のすばらしさでありま
す。

平成25年1月23日開催の

新春仏教特別講座より

(佐々木太一 記)

類いまれな機動力をそなえ、法務の合間にテニス・水泳、最近は舞台鑑賞と多趣味で多忙。でも、たまには突っ走り過ぎることも……。交友関係も広く、押しも強く、会長としてなくてはならぬ存在。本人いわく「世界の平和と共生に少しでもお役に立ちたい」との社会派。(隅谷)



長田 譲
(おさだ・ゆずる)
昭和34年生まれ。
滋賀より正念寺に入寺して四半世紀。

『大悲』編集者の横顔



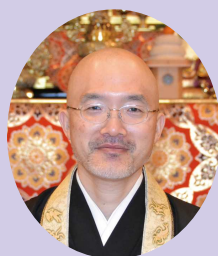
ななにんなないろ

鑑賞。機械部品メーカーに10年間勤務後、自坊(西光寺)にもどり、現在は法務の合間、大谷大学で聴講。若い頃の彼を知っている。「人間は発達・成長する」ことを確信。間違いなく大器晩成型の男です。とにかく子煩悩で、水泳教室のコーチもこなすタフガイです。(長田)



寿栄松正顕
(すえまつ・まさあき)
昭和47年生まれ。
趣味は釣り(殺生)、サーフィン、音楽

照寺の住職となる。100号を越す寺報『高照寺ねっと』の作成、そして8年目となる本山『ともしび』の編集委員の経験から、『大悲』においても企画提案から編集作業まで担当。お酒が大好きで、飲み過ぎて瞑想？にふけることも……。最近、雅楽の筆筆を始めたそうです。(門川)



隅谷俊紀
(すみや・としき)
昭和42年生まれ。
9年間の製薬会社の勤務を経て、高

燦ホールディングス グループ



なごみ庵

き・た・は・ま

KITAHAMA

法要料理
希望の場所までお届けします

■四條畷店 ☎0743-78-7521
■瓜破店 ☎06-6769-0140
■伊丹店 ☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

御本山 近 用達

株式会社

川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話(075)371-0367(代)

FAX(075)371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

〒600-8503

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤルTEL 0120-075-720番

フリーダイヤルFAX 0120-075-490番



株式会社 モントラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

TEL. 06-6531-1344

FAX. 06-6531-1346

<http://www.monto.co.jp>

仏跡参拝ならお任せください!

(株) 小林造園

代表取締役: 小林正典

〒603-8442

京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256

fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。



公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付、通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131



玉出宗順

(たまで・そつじゅん)

昭和49年生まれ。10年間、東京・西徳寺で勤務後、自坊（光福寺）の副住職となる。東京ではよく学び、よく飲んだそうです。今ではお酒を飲むと熱く語ります。写真をご覧いただくと、やさしそうに見えますが、曲がったことが大嫌い。一本、筋が通った男です。新年互礼会では、着物も着こなす粋な一面も持っています。（寿栄松）



佐々木太一

(ささき・たいち)

昭和32年生まれ。編集メンバーの中で最年長であり、長年の銀行員のキャリアから会議においては鋭い指摘をする頼りになる先輩です。また昨年、常光寺・住職継職法要を勤修。「日々のお参りの際にはご門徒様のお話に『そうですか』と相槌を打つだけのことが多いが、私にとっては大切な法話だ」と語られる熱い方です。（玉出）



葦名 彰

(あしな・あきら)

昭和38年生まれ。平成4年、大阪市内より高槻市郡家の妙圓寺に入寺。以来、法務に邁進し、門徒様からの信頼も厚い住職となる。まあいいお顔、柔らかな物腰、温和な性格で、「大悲の会」のオアシスのような存在としてメンバー皆を和ましてくれます。最近、猫を飼い始めたのですが、実は猫アレルギーだとか…。（佐々木）



門川 崇志

(かどかわ・たかし)

昭和51年生まれ。浄方寺の副住職。若い頃は大的お寺嫌いでお寺から逃げ回っていたそうですが、大学卒業後、ついに阿弥陀さんに捕まえられ、今では公私ともに仏教漬けの生活。優しい端正な顔立ちからの話にはユーモアがあり、文章を書かせればシャープでクールな表現力。趣味は雅楽の龍笛。間違いなく教団のホープです。（葦名）

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー



株式会社 石留石材

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社：京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

アルパ人物の再考

小嶋龍平

土地・建物・その他、様々な問題を共に考えます。
(株)小嶋建築事務所のグループ(24期目)です。
大阪：〒530-0041 大阪市北区天神橋3-11-5
TEL 06-6136-1160 FAX 06-6136-1170
姫路：〒671-1222 姫路市網干区宮内231番5

慶事・仏事・各種会合などの際は
和光菴のお料理を御利用下さい。

0120-11-5680

仕出しは年中無休 ※年末年始除く

株式会社 和光菴

京懐石

〒543-0073

大阪市天王寺区生玉寺町3-32

<http://www.wakouan.co.jp>

和光菴

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

創業安政3年

京 佛 具 調 進

森田屋

福野御佛具處

〒601-8424

京都市南区西九条猪熊通九条上る

tel. fax 075-691-8423

正しい値段 正しい奉仕



南海高野線堺東銀座街

〒590-0077 堺市堺区中瓦町1-3-9

電話 072-232-0067・1565

FAX 072-232-6339

大悲トピックス

■大悲の会主催「新春仏教特別講座」開座

1月23日、常光寺（佐々木太一住職）くすの木ホールを会場として、大悲の会主催「新春仏教特別講座」を開催しました（6・7頁に講座要旨）。

常光寺ご門徒でもあり、佛光寺茶所布教聴聞や、大谷大学ならびに龍谷大学で聴講を重ねられている田島靖氏^{たじまやすし}からお話を賜りました。

当日は、ご門徒の皆様をはじめ、教区内外の僧侶、あわせて64名が田島氏のあついお話に耳を傾けていました。



①会場の常光寺くすの木ホール ②田島氏（右）のお話を熱心に聴聞される方々

■さつき会研修会開催

さつき会では3月7日、「笑いのある生活」をテーマとして、笑福亭竹林^{ちくりん}さんに落語を披露していただきました。

当日はさつき会会員に限らず、大阪教区寺族あわせて18名が参加。皆さん、竹林さんの落語に、お腹を抱えて笑っていました。



①落語家の笑福亭竹林さん ②竹林さんの落語に大笑いされる皆さん

■大阪教区の宗会議員確定

1月18日、第五選挙区（大阪教区）において3名の宗会議員が確定しましたのでお知らせいたします。（敬称略）

▽佐竹寛繁（光用寺）

▽向井公夫（宝林寺）

▽渚 暁（安養寺）



社寺・改築
建築・設計・施行

株式会社 **オカモト建設**

〒547-0035 大阪市平野区西脇1-3-1
TEL. 06-6703-7835(代)
FAX. 06-6703-7848

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽（尺八・箏）出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

霊園・墓石のことなら
おまかせください

株式会社

中山石渠

0120-10-2951

・大阪本社 電話(06) 6862-0074
大阪府豊中市利倉1丁目9番1号
・東京本社 電話(03) 3364-3555
東京都中野区中央2丁目22番13号(ワジビル13F)
<http://www.nakayamasekiryo.co.jp>

天下茶屋あられ 総本店

地下鉄・南海「天下茶屋駅」すぐ
大阪市西成区花園南2-7-6
電話/Fax 06-6658-3041
定休日：なし



〒600-8150

京都市下京区東洞院通

上珠数屋町下ル

TEL. 075-371-2852

FAX. 075-371-2857

だ い ひ 絵 日 記

- 1月1日(火・祝) 大阪別院修正会
 1月10日(木) 大阪教区新年互礼会
 1月21日(月) さつき会研修会(『大経』偈文に聞く・講師:門川崇志 師)
 1月23日(水) 大悲の会新春仏教特別講座
 (教えに遇って・講師:田島 靖 氏)(常光寺くすの木ホール)
 1月29日(火) 大悲の会編集会議(総会・第9号読み合わせ)
 2月14日(木) 法友会研修会(往還二回向について・講師:一楽 真 師)
 2月19日(火) 大悲の会編集会議(第9号読み合わせ)(浄方寺にて)
 2月25日(月) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)
 3月7日(木) さつき会研修会(笑いのある生活・講師:笑福亭竹林 氏)
 3月17日(日) 大阪別院彼岸会
 (布教:佐々木太一 師)
 3月20日(水・祝) 大阪別院彼岸会
 (布教:藤野良昭 師)
 3月23日(土) 大阪別院彼岸会
 (布教:寿栄松正顕 師)
 3月25日(月) 大悲の会編集会議
 (第9号発送作業・第10号内容検討)
 3月30日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)



2月14日の法友会研修会で講義される一楽師

夕に感謝
 朝に礼拝
 伝統工芸 京仏壇・京仏具
 (株) 若林
 SINCE 1830 www.wakabayashi.co.jp
 京都市下京区七条通新町東入
 ☎(075)371-3131代 年中無休
 E-mail info@wakabayashi.co.jp
 フリーダイヤル ☎0120-37-8585(各店共通)
 東京店・築地店・札幌店・仙台店・近江草津店・福岡・新潟

お墓なんでも相談センター
 永遠の想いを像に還るお手伝い
 ヨシザワ
 株式会社吉澤石材工業所
 シキュー イシヤニ
 フリーダイヤル 0120-49-1482

浜屋は関西最大級の
 お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
 専門店です。
 やすらぎの
 世界を創る
 浜屋
 通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
 お問い合わせ
 お申し込みは
 0120-1616-94
 ●受付時間/午前10時~午後6時30分

協 賛
 法 友 会
 さ つ き 会
 佛 青 懇 和 会

- 広告募集(『大悲』発行は広告によって支えられています)
 企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
 1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。
- 定期購読(ご門徒の皆様方にもお渡しください)
 『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部
 単位でお願いいたします。

大阪教区・別院 行事予定

大阪教区

5月17日(金) 午後5時 総会

法友会(住職会)

5月17日(金) 午後5時 総会

さつき会(坊守会)

5月24日(金) 午前11時 総会

佛青懇和会(青年会)

4月4日(木) 午後6時 総会

大悲の会(『大悲』編集会議)

4月23日(火) 午後6時 編集会議

5月22日(水) 午後6時 編集会議

6月25日(火) 午後6時 編集会議



写真 寿栄松正信氏

編集後記

★1月23日、大悲の会主催の新春仏教特別講座を開座させていただきました。平成18年に新築された常光寺くすの木ホールをお借りしたのですが、市街地の駅前ということもあり、通りがかりの方もご聴聞してくださいました。★講師である田島靖氏の溢れ出てくるようなお言葉の一つひとつに、親鸞聖人の教え

とともに歩まれた半生を感じずにはいられませんでした。★講座終了後は、田島氏を囲んで、有志による懇親会を開催しました。そこでも田島氏のお言葉は輝いていました。★大悲の会では、特別講座に限らず、いろいろな企画を考えています。また、何かご要望がございましたら会員までお知らせください。(隅谷俊紀)

大阪教区・別院だより『大悲』第9号

平成25年(2013年)4月1日発行(発行部数2000部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲の会

長田 譲(会長)

門川崇志(監事)

隅谷俊紀(副会長)

佐々木太一

寿栄松正顕(会計)

葦名 彰

玉出宗順(会計)